

# 多様な考えに気づかせ、自分事として捉えることを

## 目指した道徳授業の実践

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系  
松井 祐人

本研究の目的は、教科化された道徳において児童が友達の多様な考えに気づき、自分事として捉え、日常生活に生かしたいと思える授業を考え、実践することであった。その手立てとして、従来のような登場人物の心情把握にとどまる道徳の授業展開ではなく、考え・議論する道徳として「問題解決型の道徳授業」をもとに実践を行った。事前アンケートを実施し、抽出児を決定した。第1回目を比較授業として、その後合計3回の研究実践を行った。授業プリントの振り返りでは「①自分のこととして考えた②友達の考えで気づくことがあった③これからの生活に生かしたいことがあった」の3項目において、児童の自己評価と授業プリントの記述から分析・考察を行った。その結果、個別に見ると、自分事として捉え、友達の考えとの違いから自分の考えが深まったり変化している様子が見られたが、全ての抽出児に対して有効ではないという課題が残された。